

50. しぜんのの音さがし

1. ねらい

- (1) 森の中で聞こえる音をさがし、普段気づくことのない多様な音に気づくことで、動植物の意営みに触れる機会をつくります。
- (2) じっとして耳を澄ます活動をつうじ、自然に対する注意力を養います。

2. 時期・時間・場所

- ・年間を通じて活動可能。
- ・1時間程度
- ・自然の家フィールド内
(鳥の声を聞きたい場合、樹木がある場所が好ましい。また、他の団体の活動の音や自然の家の施設の音が聞こえない場所が望ましい)

3. 準備

自然の家で貸し出しできる物	利用者で準備する物
ストップウォッチ 色鉛筆	メモ用紙 人数分 筆記用具(色鉛筆) 人数分 または、模造紙

4. 活動内容

○音いくつ聞こえた？

聞こえる音の数を数える活動です。

- ①フィールドに出て、参加者を落ち着かせます。
- ②2～5分全員が黙って、目を閉じて、耳を澄ませます。
(参加者の年齢等に応じ、時間を調整しましょう。)
- ③音をかぞえる
様々種類の音があります。自分の耳でいくつの音が確認できるか、数を数えます。聞こえた音を指を使って数えてみましょう。
- ④発表
指導者は参加者が何個の音を見つけたか、聞きます。
どんな音だったか？何が出している音だと思うか？などを聞き、皆でわかちあいましょ。う。
鳥の声でも数種類の声が聞こえます。
また時間や場所によって聞こえる数は変わってきます。
自然物だけではなく、人工の音も聞こえます。その違いも聞き分けられたかどうか、確認するのもいいでしょう。

○音の地図

聞こえる音を紙の上に表現する活動です。

- ①はじめに指導者が、聞こえた音を表現する方法例示します。
- ②各自、紙と筆記用具を持ち、自分の好きな場所に移動し、座ります。
(幼児の場合、移動範囲を狭め、ロープ等で範囲を指定して実施します。)
- ③地図の説明
用紙の真ん中に○を書きます。これが自分の位置を示すことを説明します。自分の位置にシールを貼るのも良いでしょう。
- ④地図作り
自分のまわりに聞こえる音を、自分のフィーリングで地図上に記入していきます。
色鉛筆を使って表現する方法もあります。
5～10分の時間をとって地図を作成します。

(参加者の年齢等に応じ、時間を調整しましょう。)

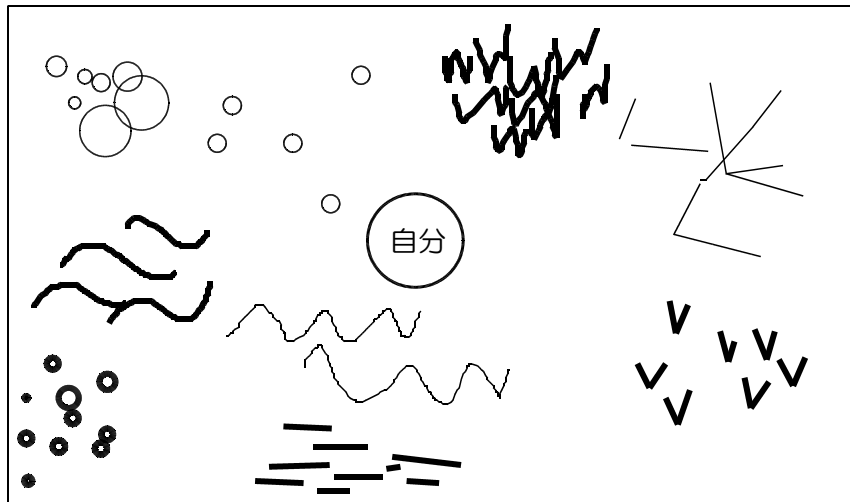
⑤発表

指導者は参加者の作成した地図を皆に示し、作成者の意図などを聞き出し、皆で共有できるように促します。

2人一組でのわかちあいも有効です。

※幼児対象に行う時、各自での地図作成が困難な場合、参加者が発表する音と形を、大きな模造紙に指導者が記入していく方法もあります。

【音の地図作製例】



5. 留意点

- (1) 活動中は引率指導者間の連絡を密にし、子どもたちを常に掌握し安全と事故防止に努めましょう。事前に素材探しのフィールド設定を行い、危険がないか確認しておきましょう。
- (2) ハイキング等と組み合わせることで、より深い学びとなる活動ができます。
- (3) 自然を大切にし、むやみに動植物を採取したり傷つけたりしないよう注意しましょう。